

神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会  
報 告 書

平成 2 9 年 6 月





# 1. 神戸市役所本庁舎のあり方検討の背景

## 1. 本庁舎の歴史的経緯

現在の2号館である市役所本庁舎は、昭和32年4月26日に兵庫区松本通1丁目（現在の湊川中学校）から、本市発展の基盤である港湾に近く国際港都の特殊性を生かすには好適の地として、現在地の中央区加納町に移転してきた。

当時の移転前の庁舎は、本庁舎のほかに十数箇所に分散して配置されていたが、行政需要の増大だけでなく、この様な非効率な状態を解消するために、現在の2号館を建設し、行政機能の集約化を図った。

しかし、その後も行政需要の増大とともに、行政組織は拡大を続け、昭和41年に現在の2号館の西隣に、現在の3号館を建設し、平成元年には事務処理の効率化やOA化に対応するためにも、現在の1号館を建設した。

兵庫区から移転してきたこの間に、本市の人口は、昭和32年当時は約103.3万人であったものが、平成29年5月時点では153.4万人に増加してきており、これに伴う行政需要の増大などと共に本庁舎のあり方も変わってきた。

本庁舎2号館が築60年を迎え、3号館は築51年を迎えようとしている。

老朽化が進み、先の阪神・淡路大震災でも被害を受けているため、建て替えを検討していく必要がある。

## 2. 本庁舎周辺地区の位置づけ

三宮周辺地区の「再整備基本構想」では、都市間競争において、選ばれるための魅力・活力の創造、地区内及び周辺地域への回遊性向上、商業や業務、文化、交流機能の集積と更新などが求められている。

本庁舎のあるこの場所は、「再整備基本構想」の地区内にあり、三宮駅から旧居留地やウォーターフロントへの導線上にあるため、周辺地域への人の流れを創っていくことが求められている。そのため、本庁舎の建替えでは庁舎のみの建替えにとどまらず、人の流れ、回遊性を創出していけるような新たなにぎわい機能が求められている。

## 3. 本庁舎のあり方検討

街の魅力向上、回遊性向上、将来の神戸のためには、どのような建物がふさわしいのか、行政機能の集約化・分散化も含めてどのような機能を持たせるのが良いのかを「神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会」で検討を行った結果を次のとおりまとめた。

## 2. 基本的な方向性

懇話会では、三宮周辺地区の「再整備基本構想」を踏まえ、本庁舎周辺地区の課題、求められていることに対して、それらを解決するための方向性の検討を行った。

### (1) 商業や業務、文化、交流施設の集積と更新について (解決するための方向性)

「神戸に暮らし、働く魅力を高める」

- ・ イベントの場の提供、魅力的なイベントの開催
- ・ 文化交流や生涯学習の拠点
- ・ 企業や大学との連携、交流拠点
- ・ 起業家の初期の活動を支える拠点
- ・ 市民活動のサポート

### (2) 都市間競争において、選ばれるための魅力・活力の創造について (解決するための方向性)

「神戸を訪れ、長時間滞在する魅力を高める」

- ・ 大規模建物の低層部へのにぎわい施設の誘導
- ・ 個性あふれる連続する店舗
- ・ 路面型、回遊型店舗を誘導
- ・ 多種多様な層の人たちの交流
- ・ 若い人たちが来たくなる街に
- ・ 夜間景観や緑地による仕掛け

### (3) 日常的なにぎわい空間やイベント等ができる広場の不足、まちなかに休憩スペースが無いことについて

(解決するための方向性)

「市民や来街者が自由に集い、憩える滞留空間を創出する」

- ・ 休憩できる快適な緑陰空間の整備
- ・ まちなかの滞留空間の創出
- ・ イベントの場の提供

(4) 地区内及び周辺地域への回遊性向上、徒歩圏内の魅力的なエリアへの回遊性が低いことについて

(解決するための方向性)

「回遊性を高める歩行者ネットワークを構築する」

- ・統一された街並みや、連続する低層部のにぎわいなど、歩く楽しさを誘導し、回遊性を高める
- ・歩道拡幅、緑や花壇などの環境整備により安全で快適な歩行者環境の創出
- ・三宮から本庁、東遊園地、KIITO、ウォーターフロントを一体的にネットワーク化

(5) シンボル軸としてのフラワーロードの魅力が弱いことについて

(解決するための方向性)

「神戸らしい緑と花のプロムナードの形成」

- ・緑陰空間や休憩場所と一体的に緑と花の空間整備を行う

### 3. 建替に際して望まれる機能

庁舎周辺地区の課題解決に向けた方向性を踏まえ、本庁舎の建替を行う場合に望まれる機能について検討を行い、次のとおり意見をまとめた。

これらの望まれる機能は、神戸らしい、市民や来街者が集い、コラボレーションを創発するもので、さらにハード面、ソフト面ともフレキシビリティの高いものが望まれる。

なお、本懇話会には、さまざまな分野から選任された委員が参加し、それぞれの視点から意見を述べ、議論を重ねた。その結果、委員の専門性が広いことから、本報告書において提示した望まれる機能もまた多岐にわたっている。その限りにおいて、新しい本庁舎には神戸市のさらなる発展を牽引する機能を多岐にわたって持ちうる可能性があると言えるのではないかと考える。そこで、神戸市におかれては、本報告書の内容をご検討いただき、本庁舎の建替えに取り組んでいただくことを望む次第である。

#### 望まれる機能（具体例）

##### (1) 三宮中心部からウォーターフロント、旧居留地への人の流れを創出するために

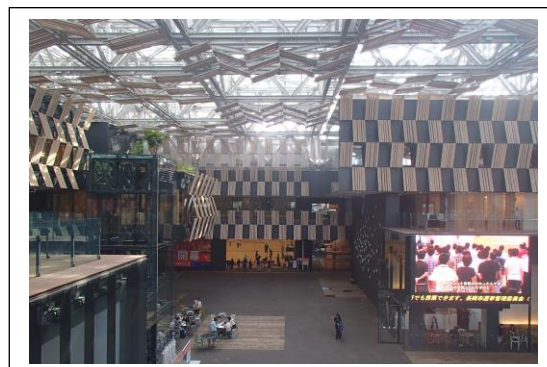
- ・人の駅（ターミナル）として他のエリアを活性化
- ・既存の都市ストックの活性化及びネットワーク化
- ・回廊型の歩行者通路整備
- ・緑のプロムナード
- ・たまり空間やイベントスペース



たまり空間 (KOBE パークレット)

##### (2) 交流、発信拠点として

- ・多種多様な人が集う場
- ・自己実現、自己表現の場
- ・知識の集積機能
- ・市民と専門家の交流機能
- ・メディアセンター（スタジオ等含む）
- ・イベントスペース
- ・多目的スペース（市民や来街者の交流・発信）
- ・交流スペース（展示やワークショップ）
- ・サンクンガーデン
- ・まちづくり情報プラザ
- ・生涯学習センター
- ・健康プラザ
- ・シニア交流プラザ
- ・子育て交流プラザ 等



屋根付き広場 (アオーレ長岡)

(3) 神戸の文化、ライフスタイルが見つかる拠点として

- ・神戸のファッション文化や食を発信
- ・神戸セレクトマーケット
- ・ショールーム 等



食文化（ファーマーズマーケット）

(4) 文化芸術発信拠点として

- ・劇場
- ・音楽堂
- ・スタジオ
- ・ライブハウス 等



ホール（アオーレ長岡）

(5) 来街者滞在のために

- ・ハイグレードタイプホテル
- ・都市型リゾートホテル 等

(6) 産官学連携ゾーンとして

- ・サテライト校舎
- ・エクステンションセンター 等



スタートアップオフィス

(7) 起業家の育成拠点として

- ・共有型ワークスペース
- ・オフィス支援 等

(8) 行政機能について

- ・三宮駅周辺の行政機能を市役所、東遊園地周辺ゾーンに集約
- ・行政機能は3号館あるいは2号館上層部分へ集約し、にぎわい機能は2号館低層部分へ配置
- ・本庁舎に必要な行政機能と分散化できる行政機能の整理
- ・市民のコラボレーション創発を支える行政機能の配置



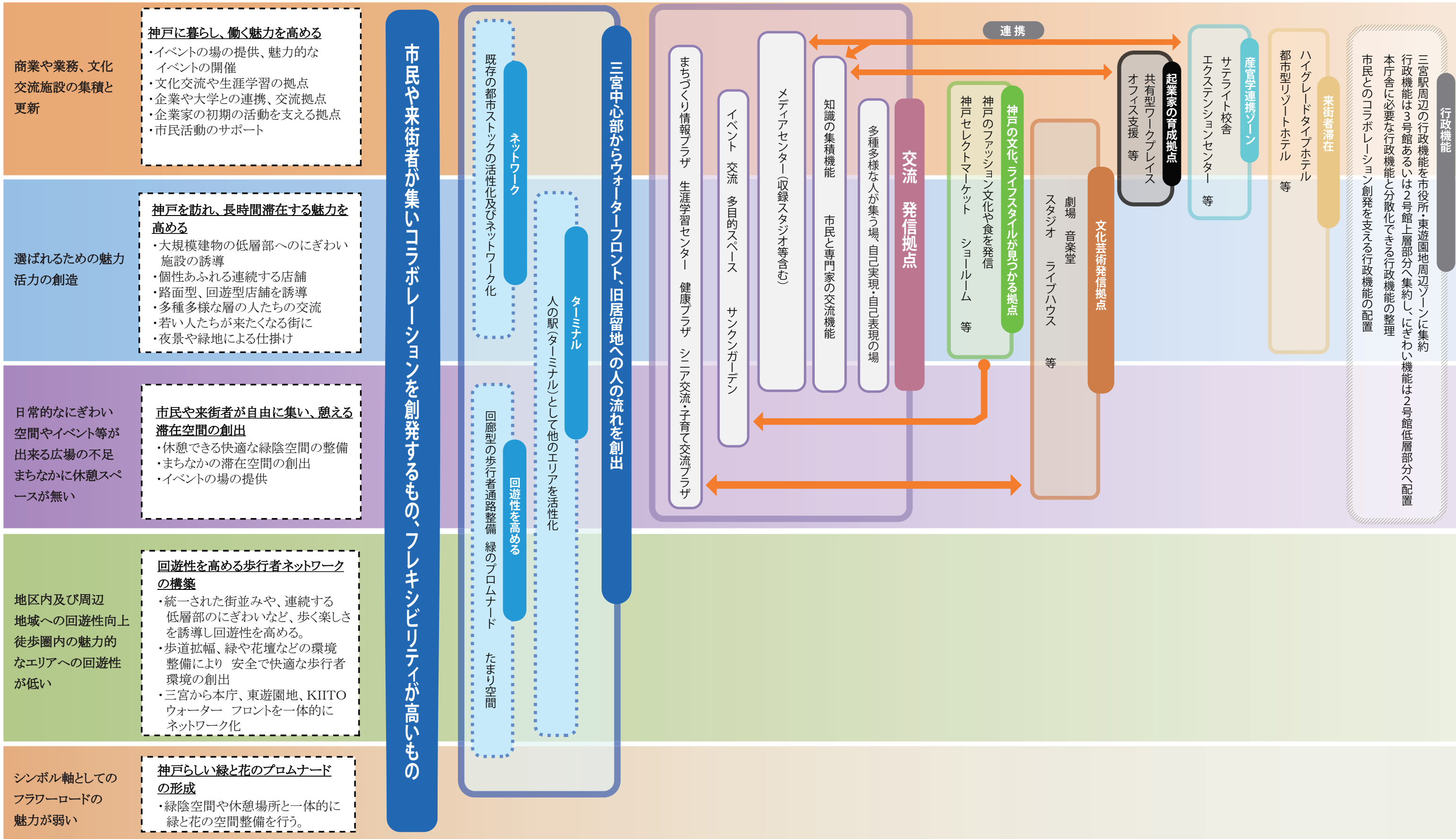




本庁舎周辺地区の課題  
求められていること

方向性

望まれる機能（具体例）









神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会委員名簿

委員名	役職等
石川 路子	甲南大学経済学部 教授
大谷 燠	NPO法人 DANCE BOX 代表
大山 雄輝	(株)フェイスクリエイツ 代表取締役 (任期：平成29年3月31日まで)
岡田 豊基	神戸学院大学 教授 (懇話会会長)
柏木 千春	流通科学大学人間社会学部観光学科 教授
品田 裕	神戸大学大学院法学研究科 教授
鈴木 美千子	神戸ロイヤルグルーミング学院 代表取締役学院長
中右 麻衣子	神戸会@東京 代表
長濱 伸貴	神戸芸術工科大学大学院 教授
南部 真知子	(株)神戸クルーザー 会長
軒原 順子	市議員 (任期：平成28年6月24日から)
野村 卓也	(株)スーパーステーション 代表取締役社長
人見 誠	市議員 (任期：平成28年6月23日まで)
平井 真千子	市議員 (任期：平成28年6月23日まで)
福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 准教授
南出 渉	(有)アームテックパブリシャーズ 代表取締役
	ライブハウス神戸VARIT マネージャー・音楽プロデューサー
山下 てんせい	市議員 (任期：平成28年6月24日から)

(五十音順)



神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会開催状況

年 月 日	概 要
平成28年6月17日	第1回懇話会 市役所本庁舎の現状と課題、本庁舎周辺地区の状況
平成28年12月21日	第2回懇話会 他都市の事例、本庁舎周辺地区の課題
平成29年3月2日	第3回懇話会 本庁舎周辺地区の課題、解決するための方向性、 求められる機能
平成29年5月19日	第4回懇話会 意見のまとめ





### コラボレーション、フレキシビリティについて

- 神戸市は、プレーヤーがもの凄く多いが、それをコーディネートする人がいない。神戸らしさをより強めるために、コラボレーションを創発するような機能、場があればいいと思う。
- 機能は固定化し過ぎるのはよくない。ハード面に関しては、できるだけフレキシビリティが高いものを造り、高くなるような使い方が重要。ソフト面では、違う世代、違う文化、違う業種の人など、いろんな方が交流でき、コラボレーションを生むような拠点であればいいと思う。神戸には、いろんな方が集まって話ができる場があることが一つの売りになると思う。
- この場所の効果、集積・集合することによる効果、代替の機能が周辺にあるかどうかにより、望まれる機能のウエイトは変わってくる。

### 人の流れを創出するための本庁舎の場所が担う役割について

- 本庁舎の建て替えをカードとして、まちづくりにどう使って行くのか考えないといけない。
- 既存のストックを生かしながら新しいものを入れていく。これが起爆剤としてどういうふうにこの街に効いてくるか考える必要がある。
- 市中心部に不足する魅力など、課題解決のためにこの場所で何ができるのか考える必要がある。
- 本庁舎の場所は、ターミナル的にほかのエリアを活性化するような役割の施設のポジショニングだと思う。
- 本庁舎の場所が担う役割について考える必要がある。三宮駅周辺が担う役割はにぎわいの創出だが、本庁舎が担う役割は、人のにぎわいの創出と周辺を繋ぐ役割にしてほしい。公共的なもので人が集まるものにしてほしい。
- 求められる機能を全て入れるのではなく、何でもできる場所、箱が必要。また、その周辺も含めて一体的にタウンマネジメントする必要がある。
- 周遊性を高めるためには、点と点を繋げる必要があり、その間は楽しい空間でないと繋がらない。駅からウォーターフロントまでの間が楽しくなければ人は流れない。
- 本庁舎のこの場所の空間の特性、場所のスピード感は、駅前エリアと比べて若干スローになってくる。この場所は市民をメインターゲットとして、滞在空間で人のターミナルになる。そういう空間特性を上手く生かしながら周りのエリアへ繋げていくのがよい。
- 本庁舎と東遊園地は、商業集積された駅前とみなとの森公園のあるパブリックエリアとの中間地点にあるので、ここには商業施設は造らずに、公益性のある市民目線のセミパブリック的なにぎわいがあると人の流れが繋がっていくと思う。

- 本庁舎、東遊園地を一体で、市民に開かれたパブリックスペースとして開放し、例えば、東京の代官山のように回遊性を高め、ウォーターフロントへ繋げていく。
- 豊島区役所は南池袋公園とネットワークしている。オープンスペースを結んでいく中心地、パークコネクトとなっている。三宮クロススクウェアや本庁舎、東遊園地をネットワークで繋ぐ参考事例となる。
- 本庁舎のこの位置の効果、集積、集合の効果、代替案の有無により、望まれる機能のウエイトは変わってくる。
- 2号館、3号館は1つに集約して、3号館跡地はURが暫定利用しているコミュニティ246のような使い方をすればいいのでは。時代に併せた使い方ができ、将来のためにスペースは残しておくのがいい。

### 市民交流について

- 学んだり、楽しんだり、寛いだりする場所になればよい。
- 市民が集まってきて、自己実現や自己表現をすることができる場が必要と思う。
- 行政、ビジネスで縛らず、市民の目線になってアートや文化など市民が使えるものにして欲しい。
- 市民と専門家が交わる交流機能が要と思うし、さらにもう少し発信に特化したような機能もあってほしいと思う。
- 市民活動などの日常的な賑わいをサポートする賑わい施設と複合化していくのがよい。非日常的な、一過性ではなく継続的な賑わいでないといけない。
- 2号館低層部は、公益性の高い機能をもっている空間であるべき。市民が積極的に参加でき、交流できる施設がいい。大阪のナレッジキャピタルのようなものがあればいい。

### 情報発信について

- 本庁舎が観光スポットになるのではなく、神戸の気持ちよさ、気持ちのいいまちをプレゼンテーションできる場所になればいいと思う。
- 神戸市は他の政令指定都市と比較してマス・メディアが少なく、トータルでの情報発信力が弱い。大きなメディアセンターを作り、在神のテレビ局・ラジオ局や新聞社、さらにはインターネットなどとコラボしながら、神戸市自らも積極的に情報発信していかなければならない。
- メディアセンターは、広く市民や学生も気軽に使えるようにし、それぞれの情報を発信する場所になることが望ましい。

### 神戸の魅力について

- 神戸の魅力を理解して、住みやすさが何かを、もう一度整理すべき。
- 異なる世代、文化を共有できるところが神戸の魅力で、そのことを対外的にアピールすることが神戸らしさに繋がる。

○望まれる機能には、神戸らしさを感じられ、そこに市民の国際性が表出するような視点が必要。

### アートについて

- 若者に選ばれるまちには、アートが絶対に必要だ。街のイメージを形成して行くことが大事だ。
- ライブハウスは若者が集まる可能性を感じる。1,000人ほど入れる施設があればよい。
- 新しい産業を創出するような機能と文化芸術が一体になっている場所が良い。
- 世界の都市の中でも市役所の中に劇場があるのは少ないと思う。若い人たちを中心に新しい舞台芸術を上演するような場、機能をもった市役所だと世界的にも注目されると思う。
- 神戸市内には文化ホールなどの多くの文化施設があるが、ここがそのネットワークの中心拠点になればいい。

### 景観について

- 高層の建物になれば圧迫感があり、そういう圧迫感があるところを歩きたいとは思わない。
- 景観的なことを考えれば、今のままの高さを維持した上でできることは何なのかを考えるのがいいと思う。行政機能はここに置かなければならないものと、分散させたほうがいいものがあると思う。すばらしい商店街があるので、商業という点ではそちらにまかせたらいいと思う。

### 行政機能について

- 市民が多く来る組織、そうでない組織もあるので、行政の組織の再配置も考えては。
- 建替えにあたっては、今後、バスターミナル予定地にある中央区役所などの行政機能の移転も考えると、現在の規模では溢れてしまうため、行政機能はここに残す機能と、分散できるものに整理する必要があると思う。なお、行政機能は3号館あるいは2号館の上層部分に集約し、2号館の低層部分がにぎわい施設になるといいと思う。
- 新しい庁舎は、働かれる方々のことも考えて機能的に仕事をしやすい場所にしてほしい。また、来られた方が見てハイカラと思えるようなものであってほしい。